鳥取の民話

51

収録・解説　酒井董美（ただよし）

語り手　片桐利喜さん（明治30年生まれ）
昭和61年9月23日収録

キジとトビとサギの歌比べ

（西伯郡大山町高橋）

サギと詐欺掛けられる

あらすじ

キジが「何ぞがああへんだらか」と山を歩き回って食べ物を捜していたら、トビもトビでそのあたりを探していました。

2羽は出会い話していると、下の方から音がするので、だれかと思ったらサギが出てきて、「ええところで出会ったけん、物を言いやぁこすりゃあ、銭がいるけん、歌うたいやこしょいや」と誘ったそうです。

そして3羽は賛成し、「キジさん、先にうたえ」「トビさんこそ先にうたえ」「いや、サギさんが先にうたえ」とだれもが先にうたいません。しびれを切らしたキジが「おらが一番先ぃうたぁわ」と言い、「ケーン　ケーン　ボトボトーッ」という声でうたったそうです。

トビはトビで「ピーン　ヨロヨロヨローッ」とうたいました。最後にサギは「ギョーッ　ギョーッ」とうたいました。それから、トビは「おらが上手だ」と言います。キジは「いや、おらが上手だ」と言います。もちろんサギも「おらが一番上手だ」と言います。

そのころ、狐（きつね）が庄屋でした。「今夜、庄屋さんに聞いて判断してもらわや」ということになりました。

キジやトビは夕飯を食べに帰りましたが、サギはドジョウをたくさん捕って、庄屋さんのところへ持って行き「これあげえけん、ええ具合にしてごしなはい」と頼んで帰ったので集まる約束の時間に遅れました。そのうち、サギもやって来ました。

3羽は連れだって庄屋さんに行きました。庄屋さんの前でうたうことになりました。狐の庄屋さんが「だれからでもうたえ」と言いますと、「さっきはキジが一番先ぃうたっただけん、キジさん先にうたわはい」となりました。キジは張り切って、「ケーン　ケーン　ボトボトーッ」とうたい、次にトビも元気に「ピーン　ヨロヨロヨローッ」とうたいます。サギも「ギョーッ　ギョーッ」とうたいました。

狐の庄屋さんは「キジも先のケーン　ケーンはえらいいいだども、後のボトボトが悪ぁし、トビさんはピーンはえらいいいだども、後のヨロヨロが悪い。サギさんでみりゃ、ギョーッ　ギョーッだけで、ヨロヨロもなし、ボトボトもなし、こうが一番よかから」とのことでした。

とうとう、サギが1等になったということです。

その昔こっぽり。

イラスト・福本隆男

解説

キジとトビに勝ったサギが、庄屋である狐をこっそり買収している。そこからサギは詐欺の言葉に掛けられていることが分かる。この話は『日本昔話通観』に掲載されていない単独伝承の話である。片桐さんの語りが実に面白い。音声でぜひお聴きいただきたい。

（元鳥取短期大学教授）

（水曜日に掲載）

鳥取県立博物館HP「鳥取の民話」コーナーで語り手の音声が聴けます。